



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第一六七号）

小雪 十一月二十二日

## 日本人の美德

この秋ほど、伊勢神宮に通ったことはありません。式年遷宮にちなむ祭典が、山場である遷御を中心、九月中旬から十月中旬にかけて十六続き、それが内宮、外宮の両宮で執り行われたからです。祭典取材三昧のなかで、感心したのは日本人の礼儀正しさでした。

遷御の儀には内宮三千人、外宮三千六百人が参道脇で奉拝され、私はその席の後ろにいました。男性は略礼服、女性はスーツというのがほとんどでした。夕刻には席に着き、儀式が始まる夜まではひたすら待たなければなりません。そこで、伊勢神宮の職員が神宮の創建、式年遷宮の歴史、遷御の儀の進行をはじめ、内宮、外宮という名称の由来など二時間にわたり、詳細に説明してくれました。一週間ほどかけて作成した原稿ということですが、

その説明の中で、最も印象に残ったのが、小学五年生の女の子からもらったという手紙の下りでした。遷御をどうしても見たいという思いがつづられていたそうです。そこで、「皆さんの奉拝席の後ろには報道陣が撮影するために控えています。ですから、席は絶対に立たないで下さい。私はその女の子と約束しました。お茶の間でも見ることができると」きっぱりとした口調でした。

その数時間後、遷御の儀が始まり、暗闇の中、御神体を囲む絹垣が奉拝席の前を通っても、誰一人席を立つ人はいませんでした。職員の言葉が奉拝者にきちんと伝わっていたのです。そして、禁止されていたカメラ撮影をする人もいなかったと後から聞きました。

遷御は古来の祭典を今に伝えていますが、日本人の美德もすっかりこの目に刻んだ儀式でした。

文 千種清美

